【体験授業用教材】

E3MMA

本科２期９月度１回目

Z会東大進学教室【体験授業用教材（抜粋版）】

最難関大英文法特講

※最難関大英語特講（E3MM）では、
下記２種のテキストを使用します。
【文法】最難関大英文法特講（E3MMA）
【読解】最難関大英文読解特講（E3MMB）
この体験授業用教材では、２種を合冊化しています。

本講座受講者の方へ

受講の際の持ち物

- 筆記用具（鉛筆のみ、消しゴム不要）
- 大学ノート（ルーズリーフは不可）
- 辞書は不要

CONTENTS

目次 …… 1
解体英熟語確認テスト範囲表 …… 2
はじめに …… 4

《９月度》
空所補充１ …… 12
書き換え１ …… 18
整序･空所補充２ …… 24
《10 月度》
正誤・対話文１・空所補充３ …… 30
空所補充４ …… 40
書き換え２ …… 50
整序・発音１ …… 56
《11 月度》
正誤・対話文２ …… 64
空所補充５ …… 72
空所補充６･書き換え３ …… 80
整序・発音２ …… 88
《12 月度》
正誤･対話文３ …… 96
空所補充７ …… 104
総合問題 …… 112

Ｅ３ＭＭＡ受講生へ

E3MMA では本科２期から『解体英熟語 改訂第２版』（Ｚ会出版）に準拠したテストを各回冒頭に記載している．Ｚ会書籍取扱店または，http://www.zkai.co.jp/books/ などから購入して，熟語をしっかり覚えて定着させることを勧める．

解体英熟語確認テスト範囲

Ｚ会刊行の『解体英熟語 改訂第２版』の内容をもとに以下の範囲から出題しています。

９月度	① 1～58	……	01 型
	② 59～98	……	02 型
	③ 99～147		
10 月度	① 148～199	……	03 型
	② 200～249		
	③ 250～325	……	04 型
	④ 326～385		
11 月度	① 386～446	……	05～09 型
	② 447～507		
	③ 508～566		
	④ 567～626	……	10～12 型
12 月度	① 627～686		
	② 687～745	……	13～18 型
	③ 746～804		

━━ はじめに（必ず読んで下さい．そして学習に迷った時，読み返して下さい．）

Z会東大進学教室の英語科の方針は，**語学としての英語学習を貫く**ということだ．英語が難しいという場合の多くは，難しいのではなく面倒なだけなのである．正しい発音をする，単語・熟語を覚える，英文を一つ一つ文法的に正確に読む，レクチャー形式の英文を正確に聴きとるということは，面倒をいとわず反復していれば必ず身につく．一番努力が報われやすい教科が英語である．したがって「英文中の単語も構造もわからないのに英文の意味がわかるようになる」といった神がかり的なことや「本番では辞書は引けないのだから，学習においても絶対に辞書は引かない方がよい」といった，プロセスと結果を混同した珍説を期待しないでいただきたい．

では本編に入る．

まず，英文は学校・Z会の授業であれ，参考書を読む際であれ，辞書を引かずに繰り返し黙読する．その後，未知の単語は辞書を引き，構文をとりながら一文一文しっかり読み進めるべきだ．ここで構文をしっかりとりながらと言ったが，構文を自力で把握できるようになるためには，英文解釈の基本的な参考書を一冊ものにしておくべきである．（ただし，設問に「訳せ」という指示がない限り，訳は書かなくてよい．）

以上をふまえて，授業を聞くなり，参考書の解説を読むなりすれば，一通りは理解ができるはずだ．

しかしここで終わっては外国語の学習として甚だ不十分だ．**外国語の学習は，意味がわかった時点ではじまるといって過言ではない**のだ．では次に何をするかというと，意味のわかった英文を短文であれ，長文であれ，何十回，何百回と黙読と音読を繰り返せばよいのである．よく，読んでいる本人も理解していないのではないかと思われるほど，速く音読することに力を注ぐ人がいるが，それは無意味である．意味を考えながら音読することだ（論文は音読には不向きであろう）．

以上のプロセスで学校の教科書，Z会のテキスト，英文解釈の参考書の英文を一つ一つこなしていってほしい．

ここまで読んできた皆さんの中で，こんなことで入試の長文は大丈夫なのだろうか，と疑う人もいるかもしれないが，**重要なポイントだけが飛び出して見えてくるといった現象はまず起こらない．英文は左から右，上から下にまず読み進めるしかないのだ．**

そのためには今言ったような基礎訓練が必要なのである．こういった地道な基礎訓練を抜きにして問題の解き方を追求したところで，自力で英文が読めるようにはならない．長文問題の解き方などといったテクニックに飛び付かずに，語学の王道ともいうべき今回述べた方法で，基本的な英語力を確立すべきだ．それだけで，大半の大学は大丈夫であり，英語を用いて意見を述べるといった次のステップに進むことができる．以下の文を参考にしてほしい．

「同時通訳の神様」國弘正雄先生のすすめる勉強法

（國弘正雄著『國弘流 英語の話しかた』より部分抜粋）

大学入試の長文読解と只管朗読

高校生の読者は，大学入試の長文問題が気になるでしょう．この分野も只管朗読と無縁ではありません．私の周囲にも高校や予備校の先生方が何人かおられる．あるとき，その一人の清水かつぞー君が，毎年四月に生徒に手渡すプリントを目にする機会があった．一読して，その説得力と正統派の精神に感心した．ぜひみなさんにも紹介いたしましょう．今回は特別に質疑応答編もつけてもらいました．

君の英語号は空に舞い上がれるか？　　清水かつぞー

わからない単語が一ページに十もあり，一つひとつ辞書を引く．そのあとで一所懸命にノートに日本語訳をでっちあげる．授業中に教師が言う訳を参考にして，自分の訳を訂正する．文法的な説明その他もノートする．家に帰って，少し復習して，それでおしまい．次の週も同じように予習して，同じように授業を受ける．

もし君が英文解釈でこうした勉強法をしていたら，残念ながら，長文を何題やろうが，何年勉強しようが，あまり実力はつかないだろう．残酷なようだが本当だ（もちろん，全然無駄とは言わない）．

それはちょうど，飛行場の滑走路をグルグル回っているジェット機のようなものだ．地面を滑走し続けるだけで，空に舞い上がることは永遠にない．

あの大きなジェット機がわずか三千メートル足らずの滑走路でどうして見事に空に舞い上がれるか，君は考えたことがあるか？原理は簡単である．脇目もふらず，まっすぐにスピードを上げて，離陸直前には時速が三百キロ以上に達するからだ．そう，ジェット機が空に飛び立つには，それなりに必要なスピードというものがあるのだ．

英語の場合もまったく事情は同じである．勉強を続けていくうちに，だんだん加速度がついてきて，どこかで飛躍がなければ，すこしも面白くないではないか．君はそうは思わないか？君は加速度を生み出すものの秘密を知りたくないか？私は自分の経験からはっきりとそれを知っている．これは本来ならば大極秘伝で，簡単に教

えるのは惜しい気もするが，今日は気分が良いから，サービスしちゃおう．

それは「スラスラ感」なのである．「この英文はスラスラわかるぞ！」という感じなのである．そうなのだ．**英文解釈の勉強とは，スラスラわかる英文を一つひとつ作りあげていくことなのだ．**

もちろん，最初からスラスラわかるはずがない．辞書を引いてもよい．構文の理解も必要だろう．やりたければ日本語に訳してもよい．しかし，それで一丁終わりとしたら，ラーメン屋に入って，待つことしばし，やっとラーメンが出てきたのに，匂いを嗅ぎ，おつゆを一杯飲み，お金を払って出てくるようなものだ．

ところが，悲しいことに，ほとんどの人の英語の勉強はこのラーメンの「おつゆ一杯」だ．頭でなんとかうすぼんやりわかったくらいで一丁あがりと錯覚する．そこからさらに一歩突っ込んで「スラスラ感」の獲得まで進もうという人はまれだ．

「スラスラ感」を味わうには，地道に音読を繰り返すという復習が欠かせない．ほとんどの生徒はそこを逃げようとする．いや，そのことに気づきもしない．教師もその点をしつこく言わない．復習は各自がやることが建前なのだ．繰り返すが，うわべの勉強を何題やっても君の英語号が空に飛び立つことはない．ところが，たった三題の長文でも，君が日本語を読むときの「スラスラ感」の半分くらいを，英語でも感じられれば，飛躍の可能性が生まれてくる．**最初から量を焦ってはいけない．「スラスラ感」さえ獲得すれば，量はあとから，あっという間についてくる．**

大学入試の長文読解は，最高レベルの生徒でも，せいぜい百題だ．本当に百題スラスラ読めるようになると，もう入試の英文は読みたくなくなるのだ．世の中にはもっとうんと面白い読み物がたくさんある．細切れ英文に百題以上つきあう義理はない．もちろん，私は入試の英文をたくさん読む．しかし，それは商売で，お金がもらえるからだ．おわかりだろうか．

よろしいか．最初の十題がスラスラ読めるようになるのに二百時間かかったからといって，その十倍の百題をスラスラ読めるようになるのに同じ十倍の二千時間かかるということはないのだ．

最初の一題は本当に涙が出るほどつらい．しかし，そこは覚悟を決めてクタクタになるほど復習したまえ．具体的には，テープを何十回と聞き，手で書いて単語を覚え，音読を繰り返す．文の構造が不明の所は教師にどんどん質問する．スラスラ感を追及する者の進歩は等比級数的である．二題目，三題目とだんだん楽になる．十題やりとげた人は，はっきりと，自分が正しい方向に進んでいるのを自覚できる．三十題やりとげた人は，ひょっとしたら，残り七十題は，一日二時間，一ヶ月で終わってしまうかもしれない．Believe me.

質問1 どんな英文を対象にするのですか．高校の教科書でもよいのですか．

自分の志望校レベルの長文が対象です．高校の教科書でももちろん結構です．生徒さんは，入試問題ではないという理由だけで，高校のリーダーを軽くみます．読めもしないくせに軽くみる．それは間違いです．高校三年のリーダーがスラスラ読めたら，これはかなりの実力です．トップレベルの大学の過去問にも直ちに取り組める．

私は毎年，高三はおろか，高一レベルの英文すら余裕をもって読めぬ浪人生にたくさん出会います．高校三年間で勉強らしきものはしてきたらしい．ただその内容となると，授業の流れに形式的についてきただけで，自発的かつ徹底的な復習などとは縁がなかったようです．

第一やろうと思っても，授業がどんどん先に進みます．高校も予備校も同じです．その辺が一番の問題です．ただし，これ以上言うと，私も興奮して，余計なことを口走りかねないので止めましょう．**進歩の見通しに確信がないと，立ち止まって復習に時間をかける勇気は持てません．**しかし，復習なしに進むとどういうことになるか，惨澹たる結果が目の前にあるのです．直視すべきでしょう．

質問2 何回くらい音読するとスラスラ感が味わえますか．

百回くらいと言いたいのですが，まあ五十回というところが，受験勉強としての現実的な数字でしょう．最初の二，三題は三桁の回数になるかもしれません．

質問3 実際に百題やれた生徒はいますか．

私の知っている範囲ではおりません．最高で七十五題です．その彼は現役のとき早稲田の文系学部のすべてに失敗したのですが，一年後には政経学部からず一っと全ての学部に合格しました．一年間で全敗を全勝に変えたのです．

質問4 一番少ない人で何題くらいですか．

十題程度で大学生になった人もかなりおります．十五題で上智に合格した人もいる．ただし彼は，別に文法問題集を一冊仕上げ，単語は，『英単語ピーナツほどおいしいものはない』(南雲堂刊，1992)を，金メダルコースの半分位までマスターしておりました．

質問5「やりたければ日本語に訳してもいい」とありますが，自分で訳さなくてもいいのですか．

他人の訳を使って，どうしてそういう訳になるのかを理解すれば充分です．飛躍の鍵は，その後の復習，音読による「スラスラ感」の獲得にあります．**基礎力のない人がむりやり自分で訳しても，デタラメ訳を作るだけで，これは時間の無駄です．**

質問6 多読をやらなくていいのですか．

現実問題として，受験生はスラスラ読める長文を一つひとつ増やしていくということだけで，おそらくは手一杯でしょう．三十題もスラスラ読めれば，入試問題でもそれなりに多読できる力はつくのですが，多読に向かう前に，入試の期日がやってくるのです．それが大半のケースです．

自分にとってやさしいものをたくさん読むのは，それはそれで結構です．いくらでもおやりください．**ただし，同じ英文を繰り返すという作業を抜きにして，最初から入試の長文がスラスラ読めるような方法はありません．**あると言う人がときたま現われ，受験生を幻惑しますが，眉につばをつけたほうがよい．反復練習なしに，最初からホームランを打てるコツなど，ないのと同じです．

質問7 パラグラフ・リーディングをすすめる講師もいますが．

本来のパラグラフ・リーディングは，ゆっくり時間をかければ細部まで意味がわかる能力を持っている人が，時間的な制約があるので，ざあーっと読むわけです．ところが，現在，予備校の教室でパラグラフ・リーディングと称しているものは，かなり異様なものです．キチンと読むことは最初から断念して，いや断念させて，当てずっぽう読みをすすめているとしか思えない．

そうなる理由ですが，入試の英文が長くなって，とても予備校のカリキュラムの中では，きちんと細部まで意味を説明している時間がないのです．たしかに実際の読書を基準にすれば，大学入試の長文などたいしたことはない．我々だって日本語なら，一時間に三十ページ位はなんでもありません．確かにゴールはそこにある．しかし，試験でそのゴールを性急に求めると，必ず歪みが出てきます．**生徒も教師も性急に対応しようとして，本来なら不可欠なステップを抜かすのです．それが，「いんちきパラグラフ・リーディング」の発生につながります．**私はそんな無意味な努力に加担するのは御免です．少々辛くても次の三ステップをお踏みなさい．

〇あらゆる武器を動員して，きちんと英文の意味を理解する．
〇理解したものをひたすら音読復習してスラスラ感を獲得する．
〇スラスラ感を獲得した長文を一題一題増やしていく．

この三つのステップをきちんと踏むと，ある時点で必ず飛躍があります．飛躍とは，全くの初対面の英文（入試の本番の英文がそうです）でも，かなりのスピードで読めるようになることです．多読も可能になるし，本来のパラグラフ・リーディングも必要に応じて出来ます．しかも自分の力で出来るようになる．

英語を読むことで，いつまでも教師に依存していてはいけません．自立しなさい．私の個人的な経験では，スラスラ感を達成するまできちんと面倒をみてあげると，たった一題で自立する生徒が出てきます．

（Z会注：パラグラフ・リーディングとは和製英語で，アメリカ・イギリスでは用いられません．）

質問8 入試の長文の長さはどれくらいが適切だと考えますか．

原書一ページ分くらいに留めるなら，不完全なパラグラフ・リーディングに対して，抑止力として機能するでしょう．教師が読み方を教えるのは，これ位の長さまででよいと，私は思っています．もし試験で，その長さでは差がつかないというのであれば，英文を長くするのではなく，解答時間の方を短縮したらどうでしょう．

一ページ分の英語が何十題かスラスラ読めれば，その力は必ず自力での多読につながります．多読とは本来自分の部屋で楽しくやるもので，お金を払って固い椅子に座って人に教えてもらうものではありません．

●●Z会方式王道学習法「文法・英作文」編●●

〈文法〉英文法には，読解で必要な文法と文法問題で必要な文法があり，それぞれ互いに重なっているが，全く同じではない．従って文法問題集を繰り返しているから，読解で必要な文法知識は大丈夫だとか，読解を十二分にやっているから文法問題集はやらなくてもよいというのは正しくない．

読解で必要な文法は，英文解釈の基本的な参考書を読む一方で，英文を読む際に文法書で調べてみることにより身につくものだ．そこで，ありとあらゆる疑問に答えてくれるレベルの文法書を一冊持っておくことが必要である．よく文法の問題集と文法書を混同している人がいるが，薄っぺらい問題集で細かい疑問点を調べるのは不可能．では具体的に一冊挙げろと言われれば，**「英文法解説」**（金子書房）がよい．文法を教える人にも上手い下手があるように，文法書を書く人にも上手い下手があり，この本の著者である江川泰一郎先生は高名な文法学者で

あるのみならず，文法書を分かり易く書く名人である．どうせ使うのならこの様な本格的かつ分かり易い本を使うのがよい．この本で調べても，該当箇所がない疑問点は，当面は無視して良いと考えられる．

では次に，文法問題の対策について話そう．文法問題には，純粋の文法問題と語法問題に分かれる．例えば仮定法の問題なら仮定法のルールを知っていれば解答できるので，純粋の文法問題．suggest のような動詞の文型を問う問題ならば，その動詞の文型を一つ一つ知っていなければならないので語法問題となる．この対策としては問題集を使うことになるが，文法中心のもの，語法中心のもの，両方とも含んでいるものがある．最初は文法中心のもので基本を固めてから，語法も含むものに移行するのがよいが，基本が一通りできている人は最初から語法を含むものに取り組んでもよい．ただし，自習用としても，詳しい解説がついているものがよい．

最も重要なのは，進め方で，どんな問題でも意味を考えながらやることが大切だ．よく，「文法の問題集を数回繰り返したが効果がでない」とこぼす生徒がいるが，よく聞くと何のことはない，意味を考えずにただ機械的にカッコに語句を入れているだけのことが多い．

では十分に理解したらそれでいいかというとそれでも不十分，せっかく理解した英文は2～3回音読してから次へと進むべきだ．こういった手順をとれば何冊も問題集をこなす必要はなく，1～2 冊でおつりがくる力はつく．

〈英作文〉英作文は和文英訳と，いわゆる自由英作文に分けられるが，いずれにしても，自己流のでたらめな英語を書いても得点には結びつかない．したがって，根本となる基本文が即座に口から出てくる位に身についていることが必要となる．そのためには意味の分かった英文は長文であれ短文であれ繰り返し音読することを習慣とし，その上で，一定数の基本短文集をものにするとよい．

基本短文集の英語の質がどうのこうのと批判ばかりし，一向に実力と結び付いていないものがいるが，一通り定評のある本なら信じて大丈夫である．This is a pen.を不自然だという人がいるが，This is a pen. を覚えれば，This is Takashi Miyazawa speaking.（こちらは宮澤孝です）This animal is a mammal.（この動物は哺乳動物です）と応用は広がるはずだ．

その基本短文を集めた決定版と言えるのが，佐々木高政先生の**「和文英訳の修業」**（文建書房）・予備編に収められている基本文 500 とその練習問題である．（※ただし絶版）

何もこの本でなければ絶対ダメだというわけではないが，多くのプロの英語の使い手がこの本を推薦しているので，覚えて損はないはずだ．

この本について同時通訳の神様と言われた國弘正雄先生は'78 年に出た「サラリーマンの英語」という雑誌の中で「佐々木高政先生の和文英訳に関する数々の著作は，私も若い時代に大いに参考にさせていただき，裨益されることが少なくありませんでした．（中略）英文が古くなった，ということはないと確信します．口語英語に入る段階として，やはり，ああいった折り目の正しい英語を自家薬篭中のものとしておくことは欠かせない準備なのです．あの種の英文が自由自在に口をついて出てくるようになれば，日本人としてそれこそしめたものなのです」と語っている．まだ学習が進んでいない人には，「書く英語（基礎編）」，「表現のための実践ロイヤル英作文法　問題演習」がよい．（自由英作文については，Z会英米人講師・執筆者によるコメントを参照．）

〈リスニング〉東大では，英語の配点の半分がリスニング・英作文にあてられているというのは周知の事実であるが，手つかずになって本番で失点してしまう人が多い．ただ英語を耳にさらしておけば，英語が聴き取れるようになると思っている人も多いが，これは言語形成期を過ぎた学習者には全く当てはまらない．また，基本的な音声訓練は不可欠だが，機械的に音をなぞるだけでは，リスニングは上達しない．たえず内容を理解しているか確認しながら英語を聞いてほしい．

また，入試においては，メモをとる技術が必要．東大が好きな形式に，放送で He can speak several foreign languages. と流されて，その内容を踏まえて He is a (　　). の中に適切な語を入れる問題（答えは linguist）のより複雑なバージョンがある．このような問題では，単に音をコピーするだけではなく，理解しながらメモをとり，考える必要がある．

リスニングの学習では，同じものを何十回も繰り返す過剰学習と，未知のものにも少しずつふれることが不可欠である．

〈入試問題〉各大学の傾向を他者から聞いてもあまり意味はない（おそらくは，「長文・短い和訳・英作文・リスニング・自由作文・文法問題とバラエティーに富んでいます．時間内に終えるのは大変ですね」というような，要は，「頑張って下さい」と言っているのにすぎない内容のことが多い）．君たちはまず，英文が正確に読め，簡単な日本語なら英語にでき，リスニングで大意をとらえ損なわないといった基本的な力を養成すればまず落ちることはないと考えるべきである．受験生は入試問題に取り組むことにより，これらの学力を養成していると考えるのがよい．

したがって，志望校の問題は自力で徹底的に研究すべきである．ただし，あまり傾向にこだわりすぎないことも大切だ．早稲田の問題は解けるが，慶應の問題は皆目見当がつかないというのはありえない．また，入試レベル以上のことにいたずらに取り組んでも労多くして益なしで終わってしまうという事実が大半の受験生に当てはまる

ということも付け加えておこう.

●●Z会英米人講師・執筆者コメント●●

For all parts of the entrance exams, the essentials are 1) a broad vocabulary, covering various fields ranging from everyday conversation to academic fields; 2) a strong grasp of grammar at the sentence level; and 3) a sense of discourse structures in both spoken and written English. The term *discourse* may be new to you, but it is not difficult to understand. Simply put, it means stretches of language above the clause or sentence level. In written English this means being able to see the connections between sentences, the points made in paragraphs, and the overall point of an essay, article, or story.

In spoken English, it means the patterns of interactive exchange ranging from ordering a meal at a restaurant, to asking for directions, or interviewing a guest on a television program. The longer the passage is, the more complexity and diversity there is.

All of the above-mentioned points are important, but if your vocabulary is limited, you won't get far with the other two skills.

On listening:

To develop listening skills for general purposes, especially when time is not a factor, listening to music, and watching movies is a relaxing way to pick up English in a random way without having to actually "study." But it will not prepare you for the entrance exams.

What you need to pass the exams is as follows:

1. A broad vocabulary. Distinguishing sounds is important: many words with the same sound (*pear/pair/pare*) have very different meanings and even those with same spellings may have a variety of meanings.
2. A grasp of grammar. Contrary to what some teachers claim, the grammar of spoken English is more complicated than that of formal written English.
3. Lots and lots of practice. We often are amazed how quickly little kids seem to pick up language, even before they go to school. But we also often ignore how many thousands of hours they spend doing it (around 8,000, actually). Unfortunately, we are older and have a lot of other things to do, so we have to study.
4. Concentration. Some listening passages are long. In such cases, concentration will help you to make the necessary connections between what you don't understand and what you do. Most listening tests are not strictly "hearing" tests, but comprehension tests.
5. Analysis. Use your brain. In an exam, all questions should have a point. Sometimes the point is merely to test memorization. But a higher level question involves solving a problem or finding a solution. In this case, short passages are often more difficult than long ones. You have to consider what you hear from several possible contexts and find a match in a short time. In writing, such questions are often quite simple, but in a listening test, they might fly right past you. The only solution is the one mentioned in point (3): practice, practice, practice.

Some bad approaches that are recently popular:

1) Voice shadowing. This has some value for students regarding conversational expressions such as "You're what?" vs. "You're *what*?" However, this technique was developed by a distinguished scholar for the purpose of training simultaneous interpreters. It has nothing to do with learning to speak English in general, and even less to do with passing a university exam.
2) Listen to CDs based on vocabulary books. These come from a junk media producing book after book without producing results. I am frequently asked to produce them myself. No way.

On writing:

1) Answer the question. Make sure that you understand the question and also what the question is aimed at.
2) Grammar is always important. This is an English exam, not a creative writing competition.
3) Most exam writing tasks are short (especially Todai) some a bit longer (Togaidai). In any case, make your main point clear right away, but don't neglect to specify what you are talking about.

For example, *I don't agree with this* is grammatical, but meaningless if what *this* refers to is unclear to the reader. Frankly, it makes perfect sense, since you can logically assume that the teacher knows what *this* refers to. But it's better to begin with a specific statement of the topic. For example: *English education should begin at the kindergarten level because . . . .*

4) Most important, you should **not** follow **false** formulas that cannot be found in normal English writing, such as

I think . . .
First, . . .
because . . .
Second, . . .
because . . .
For these reasons, . . .
I think . . .

No one writes this way but school children who lack thinking ability and mental independence. Do you have something to say? Then say it and support it with some kind of facts or reason. That's the way. Even if you're wrong in fact, that's the way. Say it! You can adjust your errors later. And you will learn from them.

大学入試の全分野において，1)日常会話から学術的分野といった様々な分野にまたがる豊富な語彙，2)文レベルでの確固たる文法の理解，3)話し言葉・書き言葉における英語の中にある談話構成の理解が必須である．談話という用語は聞き慣れないものかもしれないが，理解するのに難しいものではない．簡単に言えば，節や文のレベルを超えたことばのまとまりのことである．書き言葉では，これは文と文のつながり，各段落での要点，そして，エッセイ，記事，物語文の全体の主旨を理解できるようにするものである．

話し言葉では，レストランでの食事の注文から道を聞いたりテレビ番組でゲストにインタビューをすることにまで広がる相互情報交換のパターンということになる．文章が長くなればなるほど，複雑かつ多様になっていく．

前述のポイントはすべて重要であるが，語彙力に制約がある場合，他の2つの技術は役に立たない．

【リスニングに関して】

一般的な目的でリスニングの技術を伸ばすには，特に時間が要因でない場合，音楽を聴いたり映画を見たりして，実際に「学習する」必要なく手当たり次第英語を聞き覚えていくことが気分的に楽な方法である．しかし，それでは大学入試の準備にはならない．

大学入試に合格するのに必要なことは以下の通りである．

1. 豊富な語彙を持つこと．音を聞き分けることが重要である．つまり，同じ音を持つ多くの単語（pear/pair/pare /péə/）は非常に異なる意味を持っているし，同じ綴りの単語でさえさまざまな意味を持つ可能性がある．
2. 文法の理解が十分であること．教師の中には逆の主張をする者もいるが，口語英語の文法は正式な書き英語の文法よりも複雑である．
3. ひたすら学習を積み重ねること．就学前に，言語を習得しているような成長の早い小さな子供を見て驚かされることがよくある．しかし，私達は彼らが言語を習得するのにどれだけ多くの時間を費やすか（実際のところ，約 8000 時間）ということをよく無視してもいる．残念ながら，私達は成長し，やらなければならない多くのことがあるので，勉強が必要である．
4. 集中して聴くこと．リスニングの英文の中には長いものもある．その場合，集中力が助けとなって，理解していない内容と理解している内容の間に必要なつながりを見いだせるだろう．大半のリスニング試験は厳密には「聞き取り」試験ではなく，放送された英文の理解を問う試験である．
5. 分析すること．頭をしっかり使いなさい．試験では，すべての問題にポイントがあるはずである．そのポイントが単に記憶を試すだけのものであることもある．しかし，より高いレベルの設問には問題を解決することや問題の解釈を見いだすことが含まれている．この場合，短い文章の方が長い文章より難しくなることがよくある．可能性のある文脈から聞こえた内容を吟味し，短い時間で符合するものを見つけなければならない．書く際には，そのような問題はたいてい非常に単純なのだが，リスニング試験の場合，それらはあなたを飛び過ぎていく可能性がある．唯一の解決策はポイント(3)で言及されているものである．つまり，ひたすら練習を積んでいくことである．

【近年注目を集めている学習法の中で避けるべき方法】

1) シャドーイング．この学習法は"You are what?"(何だって？(疑問))と "You are *what*?(何だって？(驚き))のような会話表現に関しては生徒に何らかの価値がある．しかし，この方法は同時通訳者を訓練するために卓越した学者が生み出したものである．それは一般に英語を話せるようになることと何の関係もないし，大学入試合格においてはさらに少ない関係しか見出せない．
2) 単語集に付いている CD を聴く．これらは結果も生み出さずに本を次から次へと出版する安っぽいメディアが作り出したものである．私自身それらを作るようによく依頼される．そんなことできるものか．

【英作文に関して】

1) 設問に答えること．設問と設問の意図を理解していることを確かめなさい．
2) 文法は常に重要である．これは英語の試験であり，創造力を試す創作コンテストではない．
3) 入試英作文の課題の大半は短く(特に東大)，いくつかの大学でそれより少し長い程度である(特に東外大)．どんな場合であっても，まずは最も書きたいポイントをはっきりさせなさい，しかし，何について書いているのか明確に書くことを怠ってはいけない．例えば，I don't agree with this は文法的に正しいが，this が指している内容が読み手にとってはっきりしない場合，意味のないものである．率直に言うと，その教師が，this が指している内容を理解していると論理的に仮定できるなら，それは完全に意味をなす．しかし，そのトピックに関する明確な論述で始めた方がよい．例えば，English

education should begin at the kindergarten level because ... .

4) 最も重要なのは，以下のような通常の英語の執筆で見られない間違った書式に従うべきでない．

I think . . .（私は思う...）
First, . . .（第1に...）
because . . .（なぜなら...）
Second, . . .（第2に...）
because . . .（なぜなら...）
For these reasons, . . .（これらの理由で...）
I think . . .（私は思う...）

思考能力や頭脳面での自立が欠落している学童以外，こんな方法で英文を書かないものだ．何か言うべきことを持っているのか．それならそれを述べ．いくつかの事実や道理をもってその説に論拠を与えなさい．それが筋だ．たとえ事実として間違っていても，そうすべきだ．とにかく言ってみる．間違いは後で修正できる．それが学習というものだ．

●●Z会方式王道学習法「分野別参考書紹介」●●

〈基本書〉

1.「東大英語の総合的研究」（旺文社）

※東大で実際に出題された問題を素材にし，英語すべての技能を養成できる，すべての大学のための基本書．

2.「英語で考える本」（パイインターナショナル）

3.「英語で考えるには そのヒケツと練習」（パイインターナショナル）

※絶版であるが入手可．この本の通り英語に取り組めば，恐ろしいほどの実力がつく．

〈英文解釈〉

1.「英文読解入門 10 題ドリル」（駿台受験シリーズ）

2.「大学入試 英文法解釈クラシック」（研究社）

※2 は，華麗なイギリス英語を使いこなす若手英語研究家の傑作．

〈総合問題〉

1.「システム英語長文頻出問題（1 Basic / 2 Standard /3 Advanced /4 Final）」（駿台文庫）

〈要約問題対策〉

1.「英語要旨大意問題演習」（駿台文庫）※大意要約問題対策；採点基準有り
2.「英文要旨要約問題の解法」（駿台文庫）

〈文法〉

＊調べるための本

1.「英文法解説」（金子書房）※決定版

2.「表現のための実践ロイヤル英文法」（旺文社）

※あまりに平易な記述の本だと受験レベルの事項・例文が載っていないことも多いのでこの2冊をお勧めする．

3.「Basic English Usage」（Oxford University Press）

※容易な英語で文法全般が説明されている必読書．

＊問題集

1.「英文法入門 10 題ドリル」（駿台受験シリーズ）

2.「英文法基礎 10 題ドリル」（駿台受験シリーズ）

3.「英文法講義の実況中継（上・下）」（語学春秋社）※基本書

※最初は頻度にとらわれず，1・2・3 で基本事項を理解するのがよい．

〈英作文・構文〉

1.「チャート式 基礎と演習英作文」（数研出版）

※英語の達人、中尾清秋教授が書いた名著。絶版だが入手可。

2.「英作文基礎 10 題ドリル」（駿台受験シリーズ）

3.「表現のための実践ロイヤル英作文法 問題演習」（旺文社）

〈リスニング〉自分の実力よりも少しやさしめのNHKの講座を毎日聞くだけでもかなり力がつく．しかし，設問への対処の仕方が極めて重要なので，授業を受けられない人は以下の教材を用いて自習することをすすめる．

1.「おもしろいほど聞き取れる英会話3STEP リスニング」（語研）

※科学的にプログラミングされた極めて優れたリスニングの本．センターリスニング対策，会話文のリスニング対策として有効．ただしこの本の指示通り，1 つ 1 つのステップをこなさなくてはならない．《ただし絶版》

2.「VOA 英語ニュース3STEP リスニング ― 国際ニュース最前線にチャレンジ」（語研）

※ニュースの英語に集中的に取り組みたい人向け．1の続編で，レクチャー形式のリスニング対策になる．

3.「ラジオ講座」（NHK）※前述した通り，リスニングの学習では，同じものを繰り返す反復学習と，未知のものを毎日聞くことの両方が不可欠．その意味で，NHK のラジオ講座はすすめられる．

〈発音〉

1.「音で覚える発音・アクセント」(旺文社)※発音・アクセント問題対策の為

〈単語・熟語〉

1.「英単語ピーナツほどおいしいものはない(銅・銀・金メダルコース)」(南雲堂)※フレーズで覚える形式.

2.「英語基本単語集」(旺文社)

3.「速読英単語(入門編・必修編・上級編)」(Z 会出版)※まとまった頻出英文を通して単語を学ぶ形式.

4.「試験にでる英単語」(青春出版社)※抽象語が充実

5.「解体英熟語」(Z 会出版)

必ず単語集で覚えなければならない,というのが無意味であるのと同様に,絶対に単語集を用いてはならないというのも無意味である.受験勉強は短期間のうちに仕上げなくてはならないのであるから,英文を読むことを通して単語を身につける一方で単語集を併用するのは当然である.ある程度単語・熟語の知識がないと問題練習ができないので,頻出するものは早めに覚えなくてはならない.また,慶應大学の発音問題は 1,3 に出てくる読解用の単語レベルであるから,発音にも気をつけなくてはならない.

1. よく用いられるコロケーション,フレーズで覚える形式のもので,母語話者検閲が十二分になされているので信頼がおける.一橋・早慶上智の単語レベルが金メダルコースにあたる.
2. は入試必修の 3800 語(派生語を含めると 4950 語)がアルファベット順に載っているので,受験勉強の前期,中期,後期と定期的に語彙力チェックするのに便利.
3. は一通り英文を読解する学力のあるものが繰り返して英文を読み込んで単語を覚える本.あくまで単語を覚えるための本なので,英文解釈の参考書にはならない.英文を読み込んで単語を覚えるのであれば,学校・塾・予備校などで徹底的に解説された教科書・テキストを読み込む方が能率的かもしれない.
4. 抽象語,語源の解説が充実.
5. 熟語も重要.

〈辞書〉

1.「ルミナス英和・和英辞典」(研究社)

2.「ライトハウス英和・和英辞典」(研究社)

3.「スーパーアンカー英和・和英辞典」(学研)

4.「アンカーコズミカ英和辞典」(学研)

5.「ヴィスタ英和辞書」(三省堂)《ただし絶版》

最近まともに辞書を引けない生徒が増えている.東大の文法問題が学習用英和辞典の「語法欄」のレベルを超えていない以上,人任せにせず,積極的に辞書は引くべきである.ただし難しすぎる辞書では意味がない.上記で紹介した学習辞典なら,一目見てわかる記述なので辞書を引き慣れていない人にも勧められる.5 は基本語が充実している.

6.「新英英大辞典」(開拓社)

英英辞典は時折ひもとけばよいので,お下がりでもよい.6 は古典的なものであるが,I haven't much belief in his honesty.(= I can't feel very sure that he's honest.) のように例文の意味を英語で説明している個所が多いので初めての人でも十分に用いることができる.しかも持ち運びに便利.

【解体英熟語確認テスト１】

日本文の意味を表すよう，空所を適語で埋めよ．

(1) 彼はそのような事柄を重視するような父親ではなかった．
He wasn't the kind of father to make (　　)(　　) such matters.

(2) 仕方がない．困ったことだが，何とかうまく乗り切ろう．
It can't be helped.　Let's make the (　　)(　　) the bad job.

(3) 休暇は短いので最大限に活用しなければならない．
We must make the (　　)(　　) our vacation as it is so short.

(4) この機会は利用すべきだ．
This opportunity should be (　　)(　　) of.

(5) 同じ原因が同じ結果を引き起こすとは限らない．
The same cause does not always give (　　)(　　) the same effect.

(6) 私たちはトムと親しくなった．
We have (　　)(　　) with Tom.

(7) 彼はその競技会に参加した．
He took (　　)(　　) the athletic meeting.

(8) 彼の言った事がほとんど理解できなかった．
I could make (　　)(　　) what he said.

(9) 学生たちはこれらの指示を無視していた．
The students took (　　)(　　) of these instructions.

(10)彼は自分の仕事に何の誇りも感じていなかった．
He did not (　　) any (　　) in his work.

(11)彼女は料理の腕を自慢している.

She (　　)(　　) on her skill in the cooking.

(12)そんな人たちと付き合ってはいけません.

You should not keep (　　)(　　) such people.

(13)あなたは筆者が言っていることを理解できますか.

Can you (　　)(　　) of what the writer is saying?

(14)あなたはそれを担当する必要はないだろう.

You won't have to take (　　)(　　) that.

(15)民主党は共和党に勝つと思いますか.

Do you think the Democratic Party will get the (　　)(　　) the Republican Party?

(16)果物をご自由に取ってお食べ下さい.

Please (　　)(　　)(　　) the fruit.

(17)いくつかの点では彼に譲るつもりだ.

I will give (　　)(　　) him in some respects.

(18)彼の作品を審査する時には，彼の経験不足を考慮に入れなければならない.

In judging his work we must take (　　)(　　) his lack of experience.

(19)このことは人には話さないでおきましょう.

Let us keep this matter (　　)(　　).

(20)テストの結果を見ていかに勉強しなかったかを痛感した.

The result of the test (　　)(　　) to me how little I had studied.

1 次の英文の空所に入れるのに最も適切な前置詞を１つ選べ.

(1) The business failed (　　) his carelessness.
(a) at (b) in (c) through (d) of

(2) I am afraid the task is (　　) me.
(a) beside (b) beyond (c) below (d) through

(3) Who do you think the lady (　　) white is?
(a) in (b) of (c) with (d) on

(4) He cleared the street (　　) cigarette butts.
(a) of (b) by (c) off (d) from

(5) She was named Helen (　　) her aunt.
(a) to (b) on (c) from (d) after

(6) (　　) night coming on, the Keatons started for home.
(a) Of (b) By (c) With (d) For

(7) He is (　　) nature a wise, kind man.
(a) by (b) in (c) to (d) with

(8) She is going in (　　) the 100 meter race.
(a) at (b) on (c) to (d) for

(9) He is taller than I (　　) three inches.
(a) to (b) by (c) for (d) with

(10) The initials L.A. stand (　　) Los Angeles.
(a) by (b) at (c) to (d) for

2 次の英文の空所に最も適切な前置詞を入れよ.

(1) I agree (　　) you on this point.

(2) (　　) ourselves, he is an unreliable person.

(3) I am (　　) a hurry to catch the train.

(4) The building is (　　) construction.

(5) The yacht looked very white (　　) the blue sky.

(6) Are you (　　) or against my opinion?

(7) Put this English sentence (　　) Japanese.

(8) He lives (　　) a stone's throw of the sea.

(9) I can pay 1,000 dollars (　　) the most.

(10) What do you want this (　　)?

3 日本文と同じ意味になるように，下の英文の各空所に１語を補え．

(1) 「彼女は白ワインが好きなんだ．」「私もよ．」
“She likes white wine.”
“(　　)(　　) I.”

(2) 「昨晩，１万円の夕食を食べたよ．」「それだけの値打ちはあったかい．」
“I had a 10,000 yen dinner last night.”
“Was it (　　) the money?”

(3) 大切なのは値段ではなくて思いやりだよ．
It’s not the price, but the thought that (　　).

(4) いつ頃までに仕上げましょうか．
(　　) soon do you want it done?

(5) 「男女差別を何とかしなくっちゃね．」「そんなこと構うものか．」
“We should do something about sex-discrimination.”
“Who (　　)?”

(6) どっちにするのかはっきりしないのなら，一晩寝て考えてみたらどうだい．
(　　) don’t you sleep (　　) it if you are not sure which one to take?

(7) 自分のお父さんに向かってそんなひどいことを言うものじゃないわ．
(　　)(　　) you say such rude things to your own father?

(8) 御注文の品でございます．
(　　)(　　) are, sir, your order.

(9) 「窓を開けてもいいですか．」「ええ，どうぞ．」
“Would you (　　)(　　) I opened the window?”
“(　　), go (　　).”

(10) 急げば間に合いますよ．
You can (　　)(　　) if you hurry.

＜英作文＞

1 次の日本文を［　　］の中に与えられた語句をそのままの順序で用いて，それぞれ指定の語数で英訳せよ（don't のような縮約形は１語と数える）.

(1) この三角形は何のしるしですか.
[triangle／sign]（７語）

(2) 彼は違う道を通って家に帰ったかもしれない.
[may／home／way]（８語）

(3) この寒いのに，彼女を外で待たせておいてはいけませんよ.
[leave／outside／weather]（11 語）

(4) この庭園の維持費はどのくらいだと思いますか.
[it costs／keep up]（12 語）

2 次の日本文を英訳せよ.〔「天候・季節」に関する表現〕

「何て嫌な天気なんだ．今ピカッと光ったの見えたかい？」

【体験授業用教材】

E3MMB

本科２期９月度１回目

Ｚ会東大進学教室【体験授業用教材（抜粋版）】

最難関大英文読解特講

本講座受講者の方へ

◆ 受講の際の持ち物

・筆記用具（鉛筆のみ．消しゴム不要）

・大学ノート（ルーズリーフは不可）

・辞書は不要

◆ 予習について

１．各回大問1を扱う。

２．「設問」「課題」とも必ず解答を作ってくること。

（くり返し読んだ後で、辞書を用いて精読してくること）

３．復習は英文をすべてくり返し黙読すること。

CONTENTS

目次 …… 1
はじめに …… 2

《９月度》
第１講 …… 10
第２講 …… 18
第３講 …… 26
《１０月度》
第１講 …… 34
第２講 …… 42
第３講 …… 50
第４講 …… 58
《１１月度》
第１講 …… 66
第２講 …… 74
第３講 …… 80
第４講 …… 90
《１２月度》
第１講 …… 98
第２講 …… 108
第３講 …… 116

【１】

この問題は著作権の関係で、Webサイト上では公開しておりません。
教室窓口にてお受け取りください。

この問題は著作権の関係で、Webサイト上では公開しておりません。
教室窓口にてお受け取りください。

この問題は著作権の関係で、Webサイト上では公開しておりません。
教室窓口にてお受け取りください。

この問題は著作権の関係で、Webサイト上では公開しておりません。
教室窓口にてお受け取りください。

【２】

この問題は著作権の関係で、Webサイト上では公開しておりません。
教室窓口にてお受け取りください。

この問題は著作権の関係で、Webサイト上では公開しておりません。
教室窓口にてお受け取りください。

【基本例文】

次の英文を和訳せよ.

①

1) Ray is **more** smart, but **less** beautiful **than** Elly.

2) Everyone is **more or less** interested in baseball.

3) There is a bird flying up **higher and higher**.

4) My brother is **more** shy **than** unsocial.

5) You should **know better**.

②

1) **The more** you have, **the more** you want.

2) We love our brother **all the better for** his faults.

3) We love our brother **none the less for** his faults.

③

1) A whale is **no more** a fish **than** a horse is.

2) A whale is **not** a fish **any more than** a horse is.

3) I am **no more** excited **than** you are.

4) He was **not more** surprised **than** I was.

5) A whale is **no less** a mammal **than** a horse is.

6) It was **no less** a person **than** the Queen.

7) Seiichi is **not less** bright **than** Shinobu.

④

1) My brother has **no more than** 1 yen.

2) My brother has **not more than** 10 yen.

3) My brother has **no less than** 100 million yen.

4) My brother has **not less than** 1 million yen.

5) My brother is **nothing more than** a dreamer.

6) My brother is **nothing less than** a dreamer.

7) My brother's house was **no better than** a hut.

⑤

1) My brother cannot afford to buy daily necessities, **much less** luxuries.

2) I thought somebody would come along **sooner or later**.

3) He began to talk of the **later** Russian novelists.